

気象変動に負けないコシヒカリを作ろう!! ~「R6 JAなのはな米品質向上運動」実施中~

直播コシヒカリの生育は、一部で平年よりやや早くなっており、間もなく幼穂形成期を迎えます。高品質米に仕上げるため、引き続き適切な水管理を行うとともに、病害虫防除を徹底しましょう。

1 水管理 ~稲体の活力維持のため、生育時期に応じた水管理を行いましょう!~

(1) 幼穂形成期~出穂期は飽水管理 ~飽水管理で根の活力を維持!~

足跡に水が残る程度になったら入水し、常に土が潤った状態を保ちましょう。

(2) 出穂後20日間は湛水管理 ~湛水管理で登熟を向上!~

出穂期から20日間は湛水状態(田面が出ない程度)を保ち、稲体の活力を維持しましょう。(高温時は、こまめな水の入替えを!)

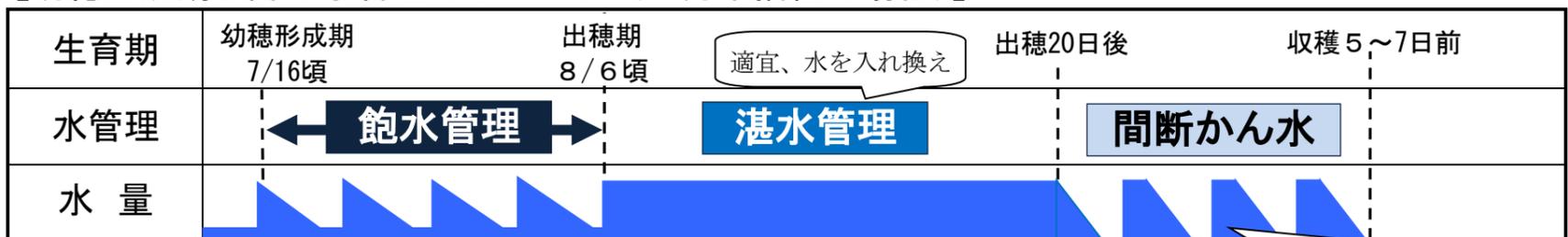
(3) 刈取りの5~7日前まで間断かん水

出穂期から20日間以降は、落水を急がず間断かん水により、最後まで稲体を生かしましょう。



【飽水管理】
足跡に水が残っている状態

【幼穂形成期以降の水管理のイメージ(4月末播種の場合)】



※播種日や播種様式により、生育の進みが異なります。

フェーンが予想される場合は、事前に湛水状態を確認!

2 追加穂肥 《肥効調節型基肥(基肥一発肥料)施用ほ場への追加穂肥対応》

○出穂の7~10日前頃に必ず葉色を確認し、葉色4.0(砂壤土の場合は4.2)以下の場合、速やかに追加穂肥(追肥3号で7kg/10a)を施用し、穂揃期の葉色を4.2~4.5(砂壤土は4.5)へ誘導しましょう。

※鉄コーティング直播は、表面播種のため倒伏しやすいので、慎重に判断しましょう。

3 病害虫防除 ~今年度もカメムシ類が多発しています!~

なのはな農協管内の雑草地でカメムシ類の調査(6/26)を行った結果、斑点米カメムシ類が平年よりもかなり多く確認されました。

斑点米等による品質低下を防ぐため、適期に2回防除を徹底しましょう。

なのはな農協管内で見られる斑点米カメムシ類



【本田防除の目安】 (※コシヒカリ: 8月6日頃出穂の場合)

防除時期		主な対象病害虫	農薬名	10a 当たり散布量
生育ステージ	時期の目安			
穂揃期	8月9~11日頃 (出穂3~5日後頃)	いもち病 カメムシ類	ラブサイドキラップ粉剤DL	3~4kg
			ラブサイドK2フロアブル	1,000倍/150ℓ(管理機) 8倍/0.8ℓ(ドローン)
傾穂期	8月16~18日頃 (穂揃期防除の7日後頃)	カメムシ類 ウンカ類	トレボンスター粉剤DL	3~4kg
			トレボンスターフロアブル	1,000倍/150ℓ(管理機) 8倍/0.8ℓ(ドローン)

※前年に紋枯病が多発したほ場は、出穂前に発生状況を確認し、必要に応じて防除を行いましょう。

生育ステージ	時期の目安	主な対象病害虫	農薬名	10a 当たり散布量
穂ばらみ期 ~出穂直前	7月26日~7月28日頃 (出穂10日前頃)	紋枯病	バリダシン粉剤DL モンカットフロアブル	3~4kg 1,000倍/150ℓ(管理機) 8倍/0.8ℓ(ドローン)

<留意事項>

- 防除の際は農薬の使用基準を正しく守るとともに、農薬飛散防止のため、風のない時に散布しましょう。
- ほ場毎に生育状況を確認して適期に防除しましょう。
- 防除間隔は7日を基本とし、10日以上空けないようにしましょう。

○天気予報と体調をチェックし、日中の気温の高い時間帯を外して農作業を行いましょう。
○こまめな水分・塩分補給や適切な休憩など、熱中症対策を徹底しましょう!